学校番号	１０１２

令和８年度　外国語科

教科	科目	単位数	指導学年	教材名・副教材名
外国語	英語文法構文Ⅱ	2	3	Zoom English Gramma23 Lessons THIRD EDITION Zoom English Grammar Lessons THIRD EDITION WORKBOOK

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

文法の知識を確かなものにしながら、英語によく出てくる構文を習得し、英文を正しく理解できるように努めます。文法力のアップのための基本反復練習によって、知識の定着を図ります。

2 学習の到達目標（「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標）

【第３学年】

領域	話すこと （やり取り）	話すこと （発表）	書くこと
学習到達目標	・日常的なあいさつができ、身の回りで起こったことや経験したことなどについてやり取りをすることができる。 ・身近なトピックや興味・関心のあるテーマについて、前もって準備したうえで、会話に参加することができる。	・絵、写真など視覚的補助を利用しながら、簡単な語や表現を使って身近なことについて簡単に説明することができる。 ・身近なトピックについて、理由とともに自分の意見を簡単に話すことができる。	・自分のことや学校、地域のことなどの簡単な紹介文を書くことができる。 ・簡単な語や基礎的な表現を使いながら、and, but, because などで文と文をつないで、日記や説明文などまとまりのある文章を書くことができる。

3 学習評価(評価の観点と実施方法)

観点	a 知識・技能	b 思考・判断・表現	c 主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で成功や考えなどの概念や要点、詳細、話し手や聞き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまり（領域）ごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	課 “題材名”	領域	評価規準	評価方法
1学期 2学期 3学期	Lesson 14 分詞(1) Lesson 15 分詞(2) Lesson 16 分詞(3)	話す	a: 「～している少年・少女は…である。」という文において、後置修飾を理解し、分詞の表現を適切に理解し、表現することができる。 b: 「～している少年・少女は…である。」という文において、どの少年・少女かを指しているかを要点・詳細を聞き手に伝えることができる。 c: 「～している少年・少女は…である。」という文を表現するにあたって、聞き手に配慮しながら伝えようとしている。	・アクティビティ (グループワーク ・ワークシート)
		書く	a: 前置修飾・後置修飾を理解し、分詞の表現を適切に理解し、書くことができる。 b: 分詞の表現を理解したうえで、人物やモノの詳細について分詞を用いて書くことができる。 c: 分詞の表現を用いて、内容を書いて伝えようとしている。	・アクティビティ ・授業プリント ・テキスト ・ワーク ・考査
	期末考査			
	Lesson 17 関係詞(1) Lesson 18 関係詞(2) Lesson 19 関係詞(3)	話す	a: 人やモノ・動物の特徴を関係代名詞の用法を適切に理解し、表現することができる。 b: 人やモノ・動物の特徴を場面に応じて、事前準備を通して、要点・詳細を聞き手に伝えることができる。 c: 人やモノ・動物の特徴を分詞表現を用いて、聞き手に配慮しながら伝えようとしている。	・アクティビティ (グループワーク・ ワークシート)
		書く	a: 主格・目的格・所有格の用法を適切に理解し、関係代名詞の文を書くことができる。 b: 関係代名詞の表現を理解したうえで、人やモノ・動物の特徴などについて読み手に配慮しながら表現することができる。 c: 関係代名詞の表現を用いて、内容を書いて伝えようとしている。	・アクティビティ ・授業プリント ・テキスト ・ワーク ・考査
	中間考査			
	Lesson 20 比較(1) Lesson 21 比較(2)	話す	a: 相手のより好きなものを聞き出す場面において、比較表現をの適切に理解し、尋ねることができる。 b: 相手のより好きなものを聞き出す場面において、対象となるものに応じて様々な比較表現を使い分け、話すことができる。 c: 相手のより好きなものを聞き出す場面において、相手に配慮しながら、比較表現を用いて主体的に話そうとしている。	・アクティビティ (グループワーク・ ワークシート)
		書く	a: 比較・最上級・原級の用法を適切に理解し、比較の文を書くことができる。 b: 比較の表現を理解したうえで、相手や自分のより好きなものなどを聞いたり、伝えたりすることができる。 c: 比較の表現を用いて、内容を書いて伝えようとしている。	・アクティビティ ・授業プリント ・テキスト ・ワーク ・考査
	期末考査			
	Lesson 22 仮定法(1) Lesson 22 仮定法(2) 学年末考査	話す	a: 「もし自分が億万長者なら…」という仮定に基づいて、仮定法の基本的な表現方法を適切に理解し、話すことができる。 b: 「もし自分が…なら」と仮定する場面を自分で想定し、状況に応じて使い分けて話すことができる。 c: 「もし自分が…なら」という文において、仮定法の表現を用いて、聞き手に配慮しながら内容を伝えようとしている。	・アクティビティ (グループワーク・ ワークシート)
		書く	a: 直接法・仮定法・仮定法過去・仮定法過去完了や未来の仮定法の用法を適切に理解し、仮定法の文を書くことができる。 b: 仮定法の基礎的な知識を活用し、「もし…なら」と自分で想定を立てて、状況に応じて文章を書くことができる。 c: 仮定法の表現を用いて、内容を書いて伝えようとしている。	・アクティビティ ・授業プリント ・テキスト ・ワーク ・考査
	学年末考査			

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度